

平成20年9月30日  
九州総合通信局

## 「ユビキタス特区」に係る実験試験局に予備免許 ～マルチメディア放送の高度利用に向けた実証実験～

九州総合通信局〔局長：武井 俊幸（たけい としゆき）〕は、本日、株式会社CSK-IS（代表取締役社長 吉本和彦）から申請のあった、「ユビキタス特区」<sup>注1</sup>に係る実験試験局<sup>注2</sup>に予備免許を付与しました。

本実験試験局は、「ユビキタス特区」として指定された福岡市において、マルチメディア放送の高度利用モデルをサービス面から検証することを目的として、現在、東京と大阪で実用化試験放送が行われている地上デジタル音声放送の方式<sup>注3</sup>を用い、ダウンロードコンテンツの課金システム等の開発・実証を行うために開設するものです。

なお、実験試験局の開始により、現在ご覧のアナログ放送の画面が見つらなくなるなどの影響が発生<sup>注4</sup>した場合には、次のところにご連絡ください。

福岡ユビキタス特区放送実験準備室コールセンター

フリーダイヤル 0120-004-171

FAX 0120-300-986

実験試験局の概要は以下のとおりです。

免許人	株式会社CSK-IS
識別信号	ふくおかマルチメディアほうそうサービスじっけん
周波数及び 空中線電力	190.214286MHz（VHF 7ch） 250W（実行輻射電力180W）
無線設備の 設置場所	福岡市早良区百道浜2-3-26 福岡タワー内
実験地域	福岡市
実験の期間	平成20年12月（予定）～平成23年3月
実験概要	別紙及び別図参照

注1 「ユビキタス特区」は、総務省が世界最先端のICTサービスを開発・実証できる環境を整備するとともに、他国の「ユビキタス姉妹特区」との連携などにより、日本のイニシアティブによる国際展開を図ることを目的として、「ICT改革促進プログラム」（平成19年4月20日）及び「ICT国際競争力強化プログラム」（平成19年5月22日）に基づき創設したもので、実験試験用の電波の利用につき、迅速な免許処理を行える体制を整備しています。

注2 実験試験局とは、科学若しくは技術の発展のための実験、電波の利用の効率性に関する試験又は電波の利用の需要に関する調査を行うために開設する無線局。

注3 ISDB-Tsbの3セグメント方式。

注4 ケーブルテレビや共聴施設で7chを使用している場合、並びにアナログ放送の6ch及び8chをアンテナで直接受信している場合

連絡先：放送部放送課 096-326-7871

～ 実験概要 ～

今回の実験に当っては、「福岡マルチメディア放送推進協議会(仮称)」を設置し、様々な企業、研究機関、行政機関と共に本実験を運営することとしています。また、一般から実験参加者を募集し、登録された参加者に対してコンテンツを配信するクラウドな環境での実験となります。この実験で実証する項目は下記のとおりです。

記

① 通信放送レイヤー体系の地域放送への適用

広告目的に制作されたコンテンツの配信による広告効果の測定、有料放送目的に制作されたコンテンツの配信による視聴者ニーズと料金体系の妥当性について検証を行い、この結果をもとに、それぞれの収益モデルでの各レイヤー(ビジネス、ソフト事業、ハード事業)の最適な役割分担や事業モデルを構築する。

② 課金コンテンツのダウンロード配信の検証

実験試験局の電波で配信された、有料放送目的のコンテンツを端末にダウンロードした後、端末操作により、通信経由でコンテンツ利用料と引き換えに、鍵(ライセンス)を入手し視聴するモデルを検証する。

③ 放送によるIP伝送 ～IP over Digital Broadcasting～

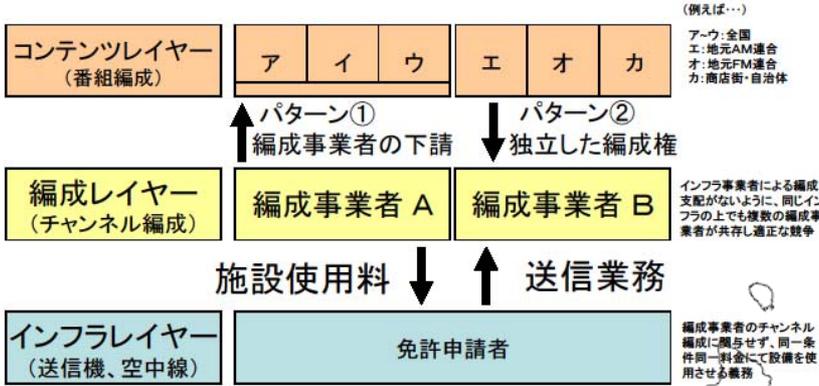
インターネット上のサービスやコンテンツを放送で活用するための連携技術を確立する。

④ 災害時の防災緊急情報の提供

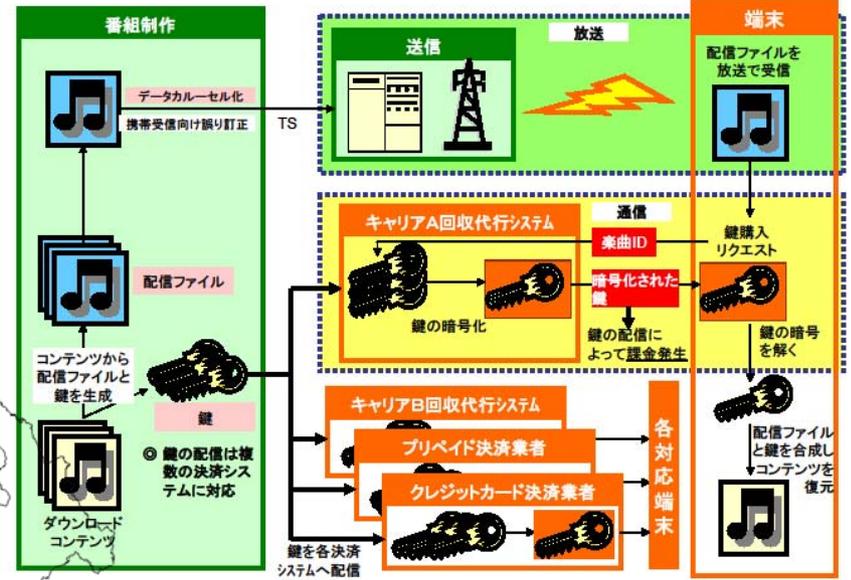
データ放送を活用した災害時の地域密着型緊急情報の提供の在り方を実証する。地方自治体と連携し、平常時は生活、観光、エンタテインメント情報等のコンテンツ配信、緊急時は行政から提供される被災情報を被災地域別にエリアコードをつけて提供する模擬実験を実施する。

### ① 通信放送レイヤー体系の地域放送への適用

全国的コンテンツとローカルコンテンツの両立  
ローカル編成が有用であるデータビジネスの確立

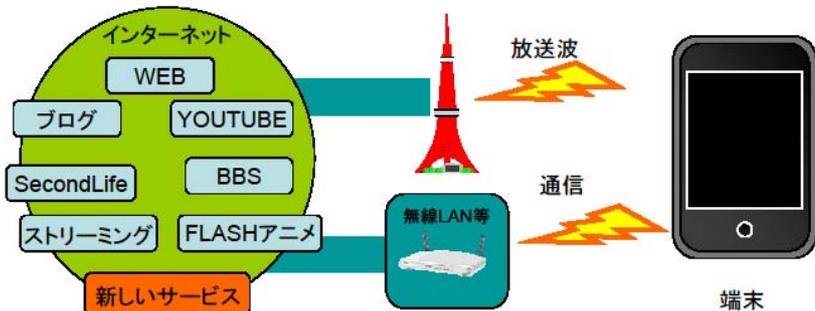


### ② 課金コンテンツのダウンロード配信の検証



### ③ 放送によるIP伝送 ~IP over Digital Broadcasting~

- 放送と通信のシームレスな利用が可能
  - IPマルチキャストのサービスであれば、どちらの経路でも同様のサービスが受けられる。
- インターネットの技術革新が放送にも適用される。
  - ⇒ 「進化する放送」の実現



### ④ 災害時の防災緊急情報の提供

#### 地下鉄駅構内での配信実験

- 地下鉄構内の遮蔽空間に、地上波のマルチメディア放送を再送信する。
- 番組内容は地上と同一のものに加え、予めUSBメモリで各駅の送信サーバーに蓄積した固定「番組」と差し替える。固定「番組」は、各駅ごとに異なるオリジナルのものを制作。「非常避難路への誘導」など、緊急時を想定し、マルチメディア放送の特性が活きる静止画・動画を組み合わせたものとする。
- 駅ごとの固定「番組」は、緊急時に遠隔操作した場合のみ送信されるように制御する。

